

溝辺小学校 校長室だより

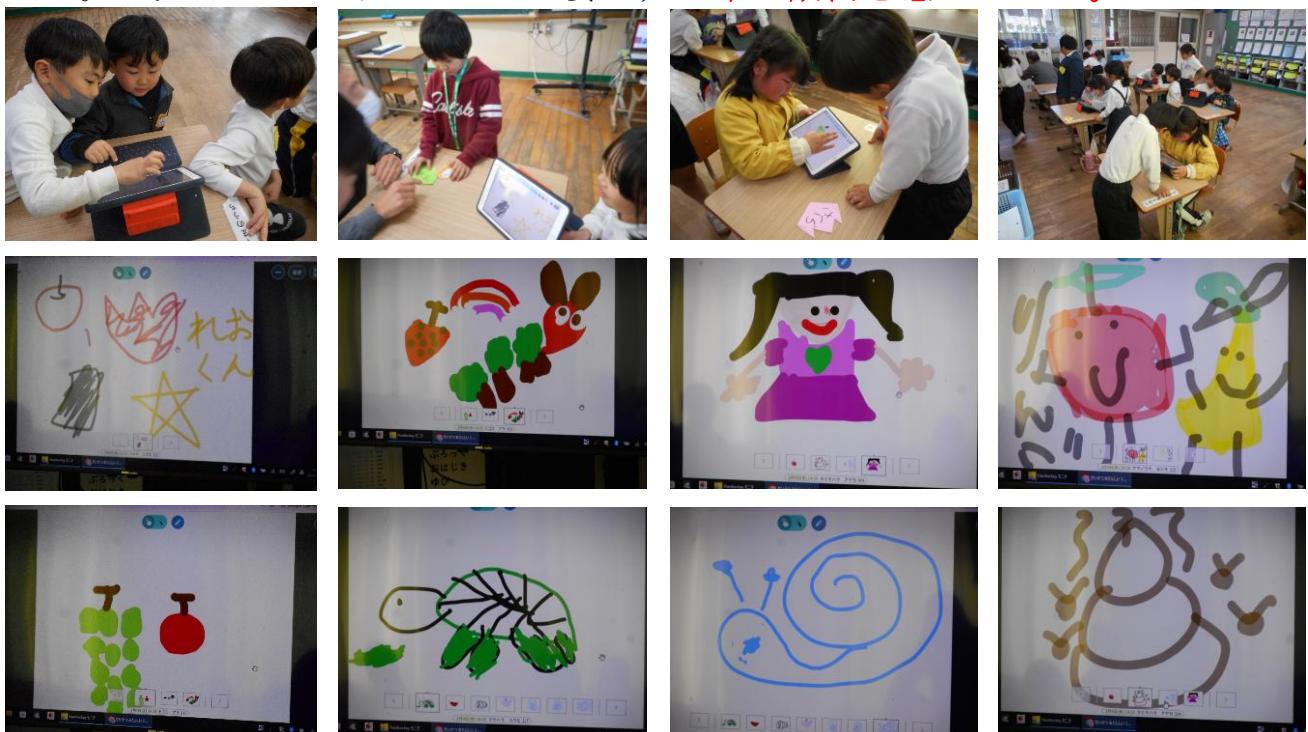
NO 181

互いを認め、共に挑戦する児童の育成

1 入学説明会より

4日（水）は、来年度入学の「入学説明会」がありました。来年度の入学生は当初11人でしたが、2人は他の学校に入学するとの連絡が入り、**9人になりました。**

保護者に入学に向けての説明をしている間、新1年生は1年生との交流を行いました。現1年生も1年前のことを見出しました。お兄さんやお姉さんらしい姿に、**1年の成長を感じました。**



2 先送り癖のある人は・・・(山本太平「仕事を短くやる習慣」より)

やらなければいけないと分かっていながら、ついつい先送りにすることもあります。山本さんは、次のように書いています。

ヒントになればと思います。

**先送り癖のある人は、「難しい仕事」から手を付けてみる
ゴールまでの「所要時間」が計算できない案件を先にやる**

たくさんの仕事を抱えている場合、あなたはどこから手をつけますか？

ある程度予想ができる簡単そうなものから始めますか？

時間がかかる難しそうなものからやりますか？

多くの人が、「簡単そうなもの」からやり始めているように思います。

その背景には、大きく2つの理由が考えられます。

ひとつは、「目の前にたくさんの仕事があるのだから、ひとつだけでも早く片付けておきたい」という切迫した心理が働くこと。

裏面もあります

もうひとつは、難しそうなものから、「できるだけ逃げたい」という気持ちが芽生えて、面倒そうなものを後回しにしているのです。

仕事を短くやるためにには、難しそうに感じるものから先に始めた方が、トータルで早く仕事が片付きます。

難しそうに感じる原因は、これまでに経験したことがないケースがほとんどですから、ゴールまでの所要時間が計算できないため、後回しにしてしまうと、結果的に期日に間に合わないという事態が発生します。

難しそうに感じる原因は、これまでに経験したことがないケースがほとんどですから、ゴールまでの所要時間が計算できないため、後回しにしてしまうと、結果的に期日に間に合わないという事態が発生します。

難しいと感じるものほど、時間をかけて取り組む必要がありますから、最優先しておけば、その時間を十分に作り出すことができます。

判断基準は「頭の中でストーリーを描けるか？」にある

仕事の難しさを判断する際は、自分の経験の有無だけを基準にするのではなく、その仕事の進め方や方向性をイメージして、具体的な「ストーリー」（展開）を頭の中で描けるかどうかで考えることが大切です。

まったくストーリーが浮かばない案件であれば、必要な情報やデータが確実に不足していますから、それらを先に収集する必要があり、「これは時間がかかるな」と想定できます。

時間がかかるなど感じたものから、先に始めればいいのです。

これまでに経験したことがない案件でも、自分でストーリーが明確に想像できるようであれば、優先順位を下げても、あまり時間をかけずに仕事を仕上げることはできるはずです。

大事なことは、抱えている仕事の全てを無事にゴールさせる点にありますから、最初に難しい案件で時間を取られても、不安になる必要はありません。

「難しそうなもの」→「簡単そうなもの」の順番で取り組んでいけば、取りこぼすことなくすべての仕事を終えることができます。